

科目名	専門演習Ⅱ Seminar II						
科目担当者	村田 治彦 MURATA Haruhiko						
単位数	4	配当年次	3年	授業形態	演習	開講学期	通年
履修学部・学科 [区分]	法学部・法律学科 [専門教育科目 演習]					ディプロマポリシーとの関連	(3)(4)
授業の概要	<p>裁判例を題材に、判例研究を通じて、法律の解釈論を学び、その能力を習得する。  課題となる判例を検討するレポーターを決め、レジュメを作成して、レポーターがそれに基づいて発表・司会進行する。  レポーター以外の者は、発表内容の分からないところを質問し、その内容を理解した上で、問題点について意見を出し合って、どのように考えるべきかを明らかにする。  現実社会での法のあり方を知るために、法廷傍聴や法専門家事務所訪問を行う。</p>						
授業の到達目標	<p>民事訴訟手続を題材に、法の見方・考え方の応用能力を身に付ける。  日頃の判例研究のみならず、学内・学外の合同ゼミを通じて、民事訴訟と他の法律との連続・不連続性を明確にして、実際に「生きた法」について考える。  ①レポーターとしてのレジュメ作成（情報収集・整理能力、問題発見能力、問題解決能力）  ②レポーターとしての発表（プレゼンテーション能力）  ③レポーターとしての司会進行（コミュニケーション能力）  ④質問（回数・内容）（コミュニケーション能力、問題発見能力）  ⑤意見 [回数・内容]（コミュニケーション能力、問題解決能力）</p>						
授業計画・内容	1	オリエンテーション			16	判例研究 1	
	2	法廷傍聴 1			17	判例研究 2	
	3	判例研究合同			18	判例研究 3	
	4	判例研究 1			19	判例研究 4	
	5	判例研究 2			20	判例研究 5	
	6	判例研究 3			21	研究報告 3	
	7	判例研究 4			22	法専門家事務所訪問	
	8	判例研究 5			23	研究報告 4	
	9	研究報告 1			24	判例研究 1	
	10	判例研究 1			25	判例研究 2	
	11	判例研究 2			26	判例研究 3	
	12	判例研究 3			27	判例研究 4	
	13	判例研究 4			28	判例研究 5	
	14	判例研究 5			29	判例研究 6	
	15	研究報告 2			30	研究報告 5	
授業外学修 (事前学修)	<p>演習は、講義形式でなく、主体的な学習が中心となる。そこで、レジュメ作成等によって事前学習をやって貰わなければならない（180分）。  分からない場合には、分からないまま放置するのではなく、サブゼミとして質疑応答の時間を設けるので、連絡して、質問して準備することが求められる。</p>						
授業外学修 (事後学修)	<p>発表し、質疑応答等によって新たに発見した課題については、次の発表に活かせるように、判例や文献等を調べ、自己学習を重ねて、テーマを深め、卒業論文の作成に繋げるようにする（60分）。</p>						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率	到達目標との対応	
	レポーターとしてのレジュメ作成（情報収集・整理能力）				40%	①	
レポーターとしての発表（プレゼンテーション能力）				30%	②		
質問、意見				20%	③、④、⑤		
司会				10%	③		
成績評価基準	<p>秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合  優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合  良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合  可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合  不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合</p>						
教科書	特に指定しない						
参考文献	川嶋 四郎 ・ 笠井 正俊（編）『はじめての民事手続法』（有斐閣・2020）						
その他	ノートパソコンを持参して臨むこと！						